

Bulk Forming

(一社) 日本塑性加工学会 鍛造分科会ニュース No. 66 2024年7月

鍛造分科会の新運営体制および行事開催報告・予定

1. 鍛造分科会の新運営体制

1.1 新運営体制

主査の4年間の任期満了にともない、分科会運営が大津雅亮主査(福井大学)から松本 良新主査(大阪大学)へバトンタッチされました。任期は2028年度総会時までとなります。2024年5月からの新体制は以下の通りです。なお、歴代の主査・幹事、研究班の変遷は、分科会HP(<http://www.jstp.or.jp/commit/forging/index.html>)に掲載しています。

主 査 松本 良 (大阪大学, 西日本地区)

幹 事 吉田佳典 (岐阜大学)

会 計 監 査 北村憲彦 (名古屋工業大学, 中日本地区)

情 報 吉田佳典 (岐阜大学)

ホームページ管理 松本 良 (大阪大学, 西日本地区)

北日本地区 柳沢祐介 (日本製鋼所 M&E)

東日本地区 小豆島明, 井上浩之 (アイダエンジニアリング), 小野宗憲, 梶野智史 (産業技術総合研究所), 加藤伸夫 (日本鍛造協会), 金 秀英 (ヤマナカゴーキン), 久保木 功 (工学院大学), 篠崎吉太郎, 清水 透, 成宮洋輝 (日本製鉄), 藤川真一郎 (日産自動車), 柳本 潤 (東京大学)

中日本地区 石川孝司, 伊藤樹一 (大同特殊鋼), 岩崎一真 (愛知製鋼), 小野一樹 (アイシン), 近藤一義, 中村 保, 早川邦夫 (静岡大学), 峯 賢義 (旭サナック), 王 志剛 (岐阜大学)

北 陸 地 区 安藤弘行 (ケイ&ケイ), 大津雅亮 (福井大学), 山道 顕 (コマツ産機)

西日本地区 岡田泰雄 (阪村機械製作所), 小坂田宏造, 柿本英樹 (神戸製鋼所), 近藤修平 (コマツ), 谷口正樹 (ダイジェット工業), 西川元裕 (山陽特殊製鋼), 村井映介 (ニチダイ)

中国・四国地区 井原直哉 (JFE スチール), 島田忠文 (住友重機械工業), 寺野元規 (岡山理科大学), 古元秀昭 (広島国際学院大学)

南日本地区 今高秀樹 (日本製鉄), 上谷俊平 (鹿児島大学), 河部 徹 (九州工業大学), 丸茂康男 (熊本大学), 南 明宏 (有明高専), 森 孝信 (森鉄工)

研究班主査 工具研究班 村井映介 (ニチダイ)

事例研究班 篠崎吉太郎

鍛造材料研究班 西脇武志 (大同大学)

鍛造知能化研究班 金 秀英 (ヤマナカゴーキン)

鍛造技術温故知新研究班 山道 顕 (コマツ産機), 井上浩之 (アイダエンジニアリ

ング)

本部企画委員 金 秀英 (ヤマナカゴーキン)

事務局 山本麻矢

1.2 主査就任挨拶

この度、鍛造分科会の主査を拝命いたしました。日本塑性加工学会の分科会の中で最大委員数（130名）の分科会（2024年3月時点）であり、冷間鍛造分科会時代を含め長い歴史を有する本分科会の主査を拝命したことは、大変名誉なことであるとともに、その重責をあらためて感じております。分科会の活性化および委員の皆様へのサービス向上に努めますので、皆様からのご指導、ご支援、何卒、よろしくお願い申し上げます。



松本 良
(大阪大学)

思い返せば、本分科会の運営委員を拝命したのは2006年6月の総会でした。当時の西日本地区運営委員の一人であった奈良工業高等専門学校・関口秀夫名誉教授からバトンタッチを受けました。運営委員への就任は事前に知らされておらず、総会当日の朝、委員の一人として総会会場へ到着したところで運営委員就任の話を伺い、ただただ驚いたことを鮮明に覚えております。奇しくも、その総会会場が今回の総会会場と同一会場（草津市市民交流プラザ）であったことは不思議な縁を感じております。

鍛造分野は自動車を始めとする輸送機器の電動化やカーボンニュートラルへの社会動向に対して、変革期を迎えており、新しい技術・研究やこれまで以上の深化が求められています。また日本の鍛造技術・研究力は世界最高水準であり、世界をリードし続けることが重要です。一方で鍛造分野は基盤技術・研究分野であるが故に、成熟技術・研究分野と認識されがちです。大学における研究室・教員の減少もあり、企業に就職後に初めて鍛造に携わる技術者・研究者が増えており、人材確保が最大の課題と考えています。このことから、技術・研究の最新情報のやり取りや人材交流・育成は研究集会・研究班集会（年2回）、実務講座（年1回）、学会本部のシンポジウム（年1回、鍛造分科会実行）を通じて、若手教育、中堅技術者・研究者のリスキングは学会本部の講座・セミナー（年2回、鍛造分科会実行）を通じて図れるよう、努める所存です。

人口減少に起因する会員・委員減少の波が押し寄せる中、本分科会のさらなる活性化のためには、より多くの委員の皆様に分科会行事に参画・参加いただくことが最重要と考えています。分科会行事の開催案内、開催報告については、分科会ホームページおよび分科会会報 **Bulk Forming** にて随時情報発信いたしますので、皆様の積極的な参画・参加をお待ちしております。幹事・吉田佳典先生（東海国立大学機構岐阜大学）、分科会事務局・山本麻矢様はじめ運営委員の皆様からのご支援をいただきながら、多くの委員の皆様に分科会運営・活動に関心を持っていただけるよう全力投球しますので、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。最後に任期の大半がコロナ禍の困難の中、分科会運営を主導くださいました福井大学・大津雅亮前主査に感謝いたします。

松本 良 (大阪大学)

2. 行事開催報告

各行事の講演プログラムは分科会 HP (<http://www.jstp.or.jp/commit/forging/index.html>) 等にてご確認ください。

2.1 総会・最優秀鍛造技術者賞贈賞式・第115回研究集会・研究班集会（2024年5月28,29日、草津市）

5/28 午後に研究班集会、5/29 午前に総会・最優秀鍛造技術者賞贈賞式、研究班集会の前半を草津市民交流プラザにて対面開催した。今回の参加者数は約40名であり、新型コロナウイルス感染症前の参加者数にだいぶ戻ってきたものの、以前より少ない参加者数であった。

研究班集会の前半（2時間）は鍛造知能化研究班集会であり、「小人化に対応するプロセス可視化・知能化の活用事例」を主題に3件の講演発表があった。後半（2時間）は国際精密鍛造セミナー実行委員会の企画で、「第9回国際精密鍛造セミナーピックアップ」と題して、当該セミナーの開催報告、日本人若手招待者の講演発表3件があった。

5/29 午前の総会では、2023年度の事業・会計報告および2024年度の事業・会計計画が承認された。総会後の2024年度最優秀鍛造技術者の贈賞式では、受賞者の旭サナック（株）・棚瀬幸彦氏に圧造機械および金型の開発と学会活動についてご講演頂いた（写真1,2）。その後の研究集会では「熱間鍛造工程の稼働状況と製品品質の可視化」を主題に「鍛造部材および二次加工品の検査技術」を大同特殊鋼（株）・森様からご講演頂いた。昼食をはさんで、5/29 午後は（株）メタルアート様に移動して、引き続き研究集会を行い、（株）神戸製鋼所・岡本様から「熱間鍛造品の寸法計測技術」、（株）メタルアート・菰田様から「熱間鍛造におけるDX推進の現状」と題した講演2件と工場見学を行った。

いずれの講演も積極的な質疑応答があり、有意義な討論がなされるとともに、大きなトラブルなく終了することができた。各講演者および（株）メタルアート様のご協力に感謝申し上げます。



写真1 最優秀鍛造技術者贈賞式の様子
(左：松本新主査，右：受賞者の棚瀬氏)



写真2 受賞講演の様子

(文責：西日本地区運営委員)

2.2 第260回塑性加工技術セミナー「鍛造入門セミナー（演習付き）」（2024年6月3,4日、京都市）

今年度は京都テルサにて対面形式で行われた（写真3）。昨年度と同様の「鍛造入門セミナー（演習付き）」と題して、「生産加工と鍛造」、「鍛造の力学」、「冷間鍛造」、「熱間鍛造」の講義と演習を中心とした初心者役に役立つことを意識した構成とした。参加者は56名であり、昨年度の53名、一昨年度の41名と比べて増加傾向が続いた。セミナー後のアンケート結果では「内容に満足」

との回答が 67%以上を占め、参加者の満足度は高かったことが確認できた。「手を動かして実際に計算をすることで理解しやすかった」、「基礎的でわかりやすい内容だった」などのポジティブな意見もいただいている。一方、参加者から「一時間に一度は休憩を入れてほしい」などの指摘もいただいているため、次回のセミナーに向けて改善を図っていきたい。

(1日目)



(2日目)



写真3 鍛造入門セミナーの様子

(文責：金 秀英 (ヤマナカゴーキン))

3. 行事開催予定

現時点での予定ですので、最新情報は分科会 HP (<http://www.jstp.or.jp/commit/forging/index.html>) 等にてご確認ください。

- ・ 2024年10月23,24日 第116回研究集会・研究班集会 (小松市, 北陸地区) (研究班集会はプロセス・トライボロジー分科会の研究会と相互聴講可能予定)
- ・ 2025年2月 第52回実務講座 (東日本地区)

(分科会以外：詳細は各主催のHP等にてご確認ください)

- ・ 2024年11月8~10日 第75回塑性加工連合講演会 (那覇市) (鍛造分科会企画・実行テーマセッション「カーボンニュートラル社会における鍛造技術」)
- ・ 2024年11~12月 第359回塑性加工シンポジウム「テーマ検討中」(実行：鍛造分科会)
- ・ 2024年12月 第187回塑性加工学講座「鍛造加工の基礎と応用」(実行：鍛造分科会)

会報「Bulk Forming」バックナンバー：<http://www.jstp.or.jp/commit/forging/bulkforming.html>

お願い：Bulk Forming No.23 (1995~96年発行)を探しております。もしお持ちの方がおられましたら、主査・松本 (ryo@mat.eng.osaka-u.ac.jp) までご一報ください。

会報「Bulk Forming」への原稿募集

Bulk Forming への寄稿を随時、受け付けておりますので、ご協力、よろしくお願い申し上げます。